West Moreton Anglican College　訪問

宝仙学園高等学校　探究科主任　米澤　貴史

１　はじめに

私立学校教員海外研修団は、2024 年 9 月 5 日、視察先である West Moreton Anglican College を訪問した。視察の目的は、同校が進めているテクノロジーと ICT プログラムの導入状況、教育環境の現状、今後の課題を把握することである。

２　学校（施設）概要

Weat Moreton Anglican College（1994 年開学）は、オーストラリア・クイーンズランド州ブリスベンから西へ 40Km ほど離れたイプスイッチに位置し、豊かな自然環境と東京ドーム３個分の敷地に小学校から高校まであり、幅広いカリキュラムを提供している学校である。敷地内には温水プールの他にテニスコートやホッケー場・チャペルなど充実した教育施設を有している。また、日本との繋がりが深く、長期・短期の留学生を受け入れており、日本には姉妹校もある。

スクリーンに生徒達の活躍を紹介

３　教育環境

15 年以上前から ICT を活用した教育に力を入れており、2011 年には Y11（高 2）および Y12（高 3）の生徒に iPad を導入するなど、先進的なアプローチを取ってきた。小学校 3 年生からは PC を使った授業が行われていたが、Y3 の児童全員が PC を利用できるわけではなく、使用の順番待ちが発生するため、集中力が途切れることも課題としてあげられていた。2018 年には Y7 以上の学年で BYOD（Bring Your Own Device）を導入し、教員や生徒が使用する学校専用のマネジメントソフト「Nest」も学校独自に開発され、教育の効率化が進められていた。

(1)　生徒たちの様子

視察時に見られた生徒たちは、ICT を活用し、自分のペースで学びを進めていた。また、すべての学習が ICT に頼るのではなく、従来型の学習（紙やペン）も残しており、各教員がバランスよく学びを進めている印象であった。

(2)　課題

Y3 の生徒たちは PC の順番待ちが発生し、集中力が途切れるケースも見受け

られた。中学校の生徒たち（Y7～Y9）については、特に集中力の維持が課題となっており、モニタリングの強化が求められていた。

(3)　今後の方針

現在、小学校低学年（Y3～Y6）における PC の導入状況には限界があるようで、すべての授業で PC を利用する必要がないと判断されていた。しかし、中学校（Y7～Y9）の学年では、2026 年以降 BYOD を廃止し、学校側から提供される PC を使用する方法に変更される予定である。この新たな管理体制によって、教員が生徒の学習状況をリアルタイムでモニタリングし、集中力を維持しながら学習を進めることが期待されていた。

４　トピックス

学校は今後、生成AIの活用とそれに伴う学習評価方法の見直しを検討しており、現在、AI を使った課題の回答が見られるため、生徒の学習機会が失われる可能性がある。そのため、AI を活用した新しい評価方法を取り入れ、より実践的なケーススタディを用いた学習に移行していく予定である。

高校の授業　デバイスも使いながら

集合写真

５　おわりに

視察を通じて、学校が積極的にテクノロジーを導入し、未来の教育環境を構築しようとしている姿勢が強く印象に残った。また、生成 AI の導入に伴う教育評価の新しいアプローチや、ICT を利用した学習環境の強化について、今後の進展が期待される。これらの取り組みは、グローバルな教育の中で重要な役割を果たすのではないかと感じた。

参考：https://www.wmac.com.au/